



公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

vol.37  
2013年 8月号

公益財団法人

School Aid Japan

〒144-0043

東京都大田区羽田 1-1-3

TEL: 03-5737-2773

FAX: 03-5737-2793

<http://www.schoolaidjapan.or.jp>

sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

## 講習会、農場実習を実施しました!!

日本は今年東南アジアより暑い夏だと報道されていると聞きました。皆様体調は如何でしょうか。カンボジアももちろん暑いのですが、日本ほど寒暖の差がないため、暑さにある程度慣れると日本よりも過ごしやすいのではないかと最近錯覚しています(笑)。

今月も様々なことがありましたが、今回は耕耘機の講習会と孤児院の農場実習について報告させていただきます。

### ① 耕耘機講習会

6月に農場の近くの農家さんと話をさせていただき、我々が手伝えることは無いか話をさせていただきました。そこで、機械を使って作業が出来れば良いというお声をいただきました。現在のカンボジアの農家さんでは、牛を使って土を耕すのが主流です。耕耘機を買うには 2,000~3,000 ドルかかり、農家さんには大きな負担となります。しかしながら、耕耘機の方が早く正確に作業できるため皆さんも使えるなら使いたいという希望を持っていました。そのため、私たちはマニュアルの作成や講習会の予行練習などを行い、8月17日に講習会を開催致しました。マニュアルは上井農場長が作成し、それを SAJ プノンペン事務所でクメール語に翻訳させていただきました。

講習会では上井農場長に挨拶や質問などの対応をしていただき、細かい説明は現地スタッフのチャンダーさんにさせていただきました。チャンダーさんは農場で耕耘機を取り扱っているため、自分の体験したことも説明して下さり、聞いている農家の方々にも大変分かりやすい説明であったと思います。また、我々日本人スタッフだけだと農家さんに伝えきれないこともあるので、プノンペン事務所から通訳でソンポアさんにも来ていただきました。

講習会では I 安全について、II 耕耘機の点検について、III 耕耘機の各部位の説明、IV 耕耘機の起動と停止、V 耕耘機の前進と後進、VI 耕耘機での作業、とひとつずつ説明しました。参加して下さった皆さんが興味を持ってしっかりと聞いて下さったのが印象的でした。また、実際に使ってもらった時には耕耘機を使ったことのある方が使ったことが無い方に熱心に教えたりと、皆で多くのことを共有することが出来たと感じました。

講習会終了後にコーラで乾杯。感想を聞くと、満足していただけただようで、他にも耕耘機の講習会を受けたい方がいるだろうとのことなので、来月も開催できるようにしていきます。また、今後も他に何かしら協力できることがないかと質問したり、農場で働ける人がいないかなど相談もさせていただきました。今は農家さんも田植えで忙しいとのことなので、田植えの落ち着く 10 月には農場に来てもらい、別の講習会ができ



講習会は大変暑い中での開催になりました。参加して下さった方は大変熱心に聞いて下さいました。多くの方のご協力の下、開催することが出来ました。

ればと考えています。

また、実際のところ、我々もまだまだ未熟なので現地のベテラン農家さんには私たちの農場を見てもらって教えてもらいたいこともあります。今後も継続して地域の農家さんとコミュニケーションをとり、より地域の農家さんに貢献できる農場にしていきたいと考えています。

## ② 孤児院農場実習

毎年開催している孤児院の農場実習を今年も行いました。今年は4班に分かれ、1週間に1班ずつが実習をしに来ました。計4週に渡って行いました。

初日に挨拶、圃場の説明が終わると早速作業です。今回はレモングラスの除草、収穫、調整作業をメインに行ってもらいました。孤児院にも農園があり、農作業は行っているのですが、園内の農園とは違い、圃場1つ1つの面積が広く、作業も基本的に半日は同じ作業の繰り返しなので、大変地味であり、大変疲れる作業であったと思います。そんな中誰一人不満を言わずに働いており、私が同じ年くらいの時にここまで働くことが出来たかと自問自答をしてしまうくらいでした。

正直なところ、今年は圃場へ作付けした面積が今までよりかなり増え、作業量も増えていたので孤児院の子ども達は非常に頼もしい戦力でした。お陰で予定していた以上の作業を行うことが出来ました。男子班には水田の修復作業も行ってもらい、農場が毎日より良くなっていくのがよく分かりました。

今回の実習では小さな作業の積み重ねをすることで、大きな成果が出るということ。大変な作業ばかりであるがこれは他の仕事でも同じであるということ。皆で協力することが大切であるということなどを伝えることができたのではないかと思います。また、今回の実習を踏まえ、上井農場長より「いただきます」という言葉の意味について説明をしてもらいました。食べ物を「いただく」ということは命を「いただく」こと。多くの人のお陰で「いただける」ということを実感してもらい、「いただきます」という言葉の意味を理解して言ってほしいと伝えました。孤児院では毎回食事前に「いただきます」を言っていますが、今後は心のこもった「いただきます」を言ってくれるだろうと思います。

今回、元々は地元の農家さんの為、孤児院の子どもの為に行ったのですが、実際に一番学んだのは我々スタッフであったと思います。人に伝える難しさ、準備や段取りの大切さ、人と考えを共有できた喜びを知ることが出来た1カ月であったと思います。また、住田事務局長、ワタミ手づくりマーチャンダイジング(株)門司社長、(有)ワタミファーム磯野社長、SAJ 職員の皆等々多くの方のご協力により耕耘機講習会、孤児院農場実習を無事に開催し、やり遂げることが出来ました。皆様のご協力なしに農場の運営はできないと感じる1カ月でもありました。まだまだ課題も多く、未熟な我々ですが今後も変わらぬご支援のほど、何卒よろしくお願い致します。我々SAJ Farm スタッフも少しでもカンボジアの皆様にご貢献できるように日々努力して参ります。



孤児院農場実習中。暑い中、地味な作業を一生懸命やってくれました。本当にありがとうございます！！

## 編集後記

今回の耕耘機の講習会、孤児院の農場実習を通じて一番感じたのは私自身の語学力不足でした。上井農場長やチャンダーさん、通訳の方などに頼ってばかりでした。今後もより多くの現地の方と接していく為にもっと勉強し、コミュニケーションできるようになり、現地の人々とより近い関係を築いていきたいと思いました。クメール語はなかなか難しいのですが、逃げずにチャレンジしていきたいと思っています。

早藤